

平成16年度専修学校先進的教育研究開発事業		
事業名	キャリアコンサルティングを中心にした学生ケアシステムの開発	
学校法人名	社団法人大阪府専修学校各種学校連合会	
学校名		
代表者	会長 鎌谷秀男	担当者・連絡先 中山正行 06-6352-0048
<事業の概要>		
1 事業の目的・背景		
<p>職業教育や技術教育を中心に据えた実践的教育を目的としている専修学校等であるが、そこで就学する学生の就業に対する心構えが、必ずしも充実しているものではない。</p> <p>近年、特に若年者の高い失業率、早期離退職、フリーター及び無業者の増加、就業意識の多様化など若年者の雇用問題が社会的に大きく取り上げられている。</p> <p>就業構造の変化している厳しい企業社会を生き抜くためには、現在、特に重要視されている技術・技能の取得を求めて入学してくる学生・生徒に対して、早い段階から充実した出口対策を実施することが必要である。</p> <p>平成15年度（昨年度）文部科学省委託事業を実施した経験から学生ケア体制を充実させるためには、各学校に経験を積んだキャリアコンサルタントや野外活動・共同生活体験を通じて人間関係の構築を身につけた指導者が配置されることの必要性を痛切に感じた。</p> <p>そのため、平成16年度は、指導者養成のためのプログラム開発に重点を置いた担当者の研修を実施するなど指導者養成について研究開発をした。このことが、専修学校等の学生指導体制の充実に繋がり、ひいては、職業教育を目的とした専修学校等の社会的認知の向上となるものと思われる。</p>		
2 研究開発の内容について		
(1) キャリアコンサルタント養成プログラムの開発と担当者研修会の実施		
<p>キャリアカウンセリングを実施することにより、学生個々人が自らの適性を把握するとともに、就職に対する心構えや職業についての理解を深めることができる。</p> <p>専門職と企業関係者、教育職、行政担当者を中心に各協力校の進路指導・学生相談担当者が集まり、キャリアコンサルタント養成部会を組織し、キャリアコンサルタント養成について調査研究をし、専修学校等にふさわしいキャリアコンサルタント養成プログラムを開発・作成した。</p>		
(2) 野外活動・共同生活の指導者養成プログラムの開発と担当者研修会の実施		
<p>技術・資格を取得したのみでは、実社会に十分には溶け込めない学生・生徒が数多くいることにかんがみ、野外活動施設等を利用して、共同生活を体験させることにより、協調性を養うとともに、リーダーシップやボランティア精神を養い、社会性を身につけ</p>		

させる必要がある。

野外活動指導員、教育職、行政担当者を中心に協力校の進路指導・学生相談担当者が集まり、野外活動指導者養成部会を組織し、野外活動指導者養成について調査研究をし、専修学校等にふさわしい野外活動等指導者養成プログラムを開発・作成した。

3 事業実施状況について

(1) 指導者養成研修会の開催・キャリアコンサルタント研修会

9月28日(火)、10月5日(火)、10月12日(火) 大阪府立青少年会館
10月19日(火) 大阪府立青少年会館(*相談事例研究)
10月26日(火) 私の仕事館研修視察(京都・精華町)
11月2日(火) 大阪府立青少年会館

* 学生相談とその実際

学校における相談の基礎知識及び相談体制

専門機関の活用を中心とした事例に基づく研修

助言者 大阪府立急性期・総合医療センター(臨床心理)等

企業訪問

現職教員が企業を訪問し、現場の現状を理解する。

企業は、どのような学生(人物面、能力面)を望んでいるか。

企業は、学校に対して、どのようなことを期待しているか。

学生に対するカウンセリング(実証報告)

研修会終了後、受講生が自校の学生を対象としたキャリアカウンセリング(主として個別相談)を実施し、その結果を実施委員会に報告

(2) 指導者養成研修会の開催・野外活動指導者研修会

10月2日(土) 大阪府私学教育文化会館
10月15日(金)、16日(土)、17日(日)
大阪府立能勢野外活動センター(宿泊)
10月23日(土) 大阪府私学教育文化会館

野外活動指導者実証講座

11月16日(火)、17日(水) 大阪府立能勢野外活動センター(宿泊)
12月4日(土)、5日(日) 大阪府立能勢野外活動センター(宿泊)

< 成果 >

1 成果物の整理、報告書の作成

成果物 1 成果報告書(概要版)

2 キャリアコンサルタント研修会テキスト

- 3 野外活動指導者研修会テキスト
- 4 キャリアコンサルタント研修会実施報告書
- 5 野外活動指導者研修会実施報告書

2 成果報告会

17年2月22日(火) 成果報告会(太閤園)

研修修了証書の交付(研修終了者に対して)

キャリアコンサルタント養成事業、学生相談事業、企業訪問事業

野外活動・共同生活指導者養成事業

学生指導に関する講演会

講師 龍谷大学ラグビー部 監督 記 虎 敏 和 先生

(元 啓光学園高等学校 ラグビー部顧問)

演題 「やる気を起こさせるコツを考える！」

—高校ラグビー部のかかわりの中から—

3 事業の成果

(1) キャリアコンサルタント研修会の成果

早急な成果評価は無理な面があるが、研修期間から今日に至る3ヶ月の間に受講者からの情報や研修修了者の簡単なアンケートから次のような成果が得られた。

今日公的機関において多くのサービス資源が整備されつつあり、有意義な情報や役立つ設備がある。これらをうまく利用することで就職活動支援も効果的になる。

グループワークが随所にとりいれられ、受講参加者同志の交流を深めることができたので、参加者相互に得がたい人脈が出来て、今後活発な情報交換が期待されている。この体験を学生にも移植することにより、学生は人前で自己主張ができるようになり、入社試験のグループ面接や就職後の職務においてもすぐに活用できることが期待される。

多くの演習を体験したが、その演習を自校へ持ち帰り実施できる。

受講者の教職員が、現在保有のキャリア教育の一連の能力に加え、学生自らが成長しようとするのを支援するためには、相手を受容し、共感し、誠実であることが求められる。

このため基本的な能力である「積極的傾聴」の技法が大切であり、これをマスターすることで学生本人が胸のうちのうちをさらけだしながら、自分を見つめなおし、自分の方向を定めることができるようになる。「積極的傾聴」を演習に取り入れ実体験をしたので、その効果を体感し、学生に対してだけでなく、職場のコミュニケーションにも活用し始めた。

「私のしごと館」において、将来自校の学生に活用させる目的も含め、新しい体験をした。

研修を終えて、就職指導の担当者としてやりがいが増したと感じた人が殆どで、この難しい仕事に果敢に挑戦する姿が思い浮かぶ。学生支援のみならず学校にも社会にも心機一転、貢献することが期待される。

(2) 学生相談研修会の成果

受講者の方々が研修を深めたことに留まらず、講師として参加したそれぞれの機関や団体の職員と懇談したことが、各組織の機能や役割の理解に加えて、職員同士が相互に意見交換ができたことで、これまで以上に理解が深まったとの声が寄せられた。今後、それらの組織がさらに連携を密にして、よりよいサービスを有機的に提供することが可能になったと思う。

(3) 企業訪問活動の研修成果

今回の企業訪問（研修）が2日間と云う短期ではあったが、協力企業からは多大な協力を得て、内容の濃い現状を踏まえての研修を進めて頂いた。

学生指導担当者は、日々の業務の中で、数多くの企業の求人を学生に紹介し、その進路指導に取り組んでいるが、現実に十分な時間を持って企業の”動いて、生きている”その姿を直視し、その中に身をおいて”体感”する事は殆ど無かった学校教職員が環境の異なる企業組織に身を置いた事そのものが、新鮮なショックであり、その事が少なからず新たな意識改革に結びついた事が大きな成果であった。

学生は就職活動において企業と接触し、その現実を理解する必要がある。指導担当者も今回の体験で学生と同じ目線で企業を捕らえる事ができた。それによって、勿論、学生と同次元での認識であってはならないが、学生が就職活動において企業研修、企業選択に迷い込んだ時に、研修の中で、”体感”したこれまで以上の生きた企業の情報を学生に提供し、指導することが可能となった。

また、社員の採用と育成についての企業の現状と課題、企業が学生と指導担当者に求めるものについて研修の中で実践的な指導を受けた事から、具体的な企業ニーズを掴めたことも大きな成果である。

更に重要な事は、今回の企業訪問の成果を最大限に活かし、学生の職業人生設計を支援出来る”キャリアコンサルタント”たるべき能力を研いてゆく事であるが、その為の数々のヒント、また具体的な提案、課題を企業訪問（研修）で得た。社員の方々が示してくれた確固たる企業人としてのプロ意識、また、厳しい社会情勢の中の企業環境の変化に機敏に対応してゆく前向きな姿勢を感じ取り、少しでも吸収出来た事は貴重な成果である。

(4) 野外活動・共同生活指導者養成研修の成果

昨年度実施事例の分析評価から、具体的な参加者の期待度や実施後の生活への影響等を紹介し、指導者養成研修をスタートした。

HRT（ハートプログラム：人間関係トレーニング）プログラムの実際の体験を含め、自然環境の中での様々な活動での感動や体験的魅力を、自分自身の言葉として伝えていけることが大きく影響する。青少年育成を目的とした自然体験活動の指導者に必要な資質を高めていくため、各学校の先生方に青少年の理解や事業運営のための組織機能と役割などについて、より理解を深めていただく機会を作ることを目的とした。

そのためカリキュラムを開発するに当たっては、各学校での効果的な野外活動事業の導入という視点で、より具体的な事業企画と運営の手法を学習することに重点を置くことが必要と考え、今回のプログラム開発は、理論的な内容に加え、より実践的な内容を重視したものとして展開した。

NEET（無業者）の30代後半への拡大は、不登校・ひきこもり青少年の増加とも関連し、青少年を取り巻く社会問題として大きな課題を提供している。「孤立する青少年」「浮遊する青少年」など、自己の存在感、居場所を見つけられないことに起因するであろうこのような動向は、今回のプログラム目的である『豊かな人間関係を築く』入り口に、いかに学生・生徒を近づけていく事が出来るかというテーマの重要性を認識する上で必要な項目である。

実証講座の参加者アンケートによると野外活動という非日常性の高い体験への期待感とその満足度が非常に高かった。自然体験活動の持つ解放性とその中で生まれる相互関係を深めるという目的を達したものであると思われる。

4 事業成果を生かすために

次年度以降の取り組みに対する考え方

- (1) 次年度以降は、委託事業で実施した15年度・16年度の2年間のこの経験・実績をふまえ、改善を図りながら、連合会主催の学生ケアに関する教員研修会を実施したいと考えている。
- (2) 次年度以降は、指導者養成研修（講義、実習）に主眼を置き（夏休み頃）、受講者がそれぞれの学校において実証を行う。
- (3) 実証した結果を持ち寄り、成果報告会（翌年2月頃）を行う。
- (4) 指導者養成研修会修了者に修了書を交付する。